

なんたる星

6

2017.



Nantaruboshi:

Ukai / Scope / Niiguy /

Hadashi / Ishado Hitoshi /

Kagata Yuko / Yoneda Kazuo /

Shintokumei / and Koizoshiteiru

【目次】

連作

えづいすいん・・・迂回

5月・・・伊舎堂仁

ビッグ・オー・・・スコラブ

ジューンブライドショッピングモールエンド・・・加賀田優子

フラダンス教室から見える踏切・・・ナイス害

それから、それから・・・はだし

ハイパー恋をしているプチ特集!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

恋をいないけど勝手にやっちゃうかんね!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!スペシャル!!!!!!!!!!!!

編集後記

有料の箱がかわいい今すぐに牛乳とバニラ詰めて冷やしたい

パキパキに歌集がそだつお姉ちゃんつま先用のこたつ買ってきたの

鍵っ子と鍵っ子に渡すAの雲ぜつとすとリーむあたくくD A Z E

ふたまわり大きい両手に包まれて隙間にエビだって飼えるピンクの

茶碗蒸しは空気を含んだら失敗で銀河を含んだら成功だわさ

すみずみに水いきわたるそれはカステラも例外ではなくて

はらはらの歌集はセンターマイク越し過剰ってつまり全部でしょう

2014.1 「H2」—10

波及する三番線を生み出して全部のエビと夏、参ります

賀正ブリザードかわいい淡いアメリカも朱鷺の歯もかわいいよう

5月

警察官

一般人

伊舎堂 仁

警備員

こんな感じの図を描かれた日

ルールなど知らない駒があるとして今日は知らない駅に降りよう

人類は光だったと勘違いしてしまうほど銀色の塔

わからない人らは様にさえなれば凄いと云うさ 無言の咆哮

ビルの谷までも追われる夏虫のいのちを吸って浮かぶ陽炎

僕の名はフローチャートの3番目ぐらいできっと非優先事項

コンビニだ そう言ってから出て来ない次の言葉のための処分場

エクストラバージンオイルを振るときにこぼれるものが悲しみだろう

どの音も音階になるその耳にソラシドレインしとど降る予報

サイキックチームアドベンチャーを観るどれひとつとて持たないものを

紫の星に生まれていたならば紫の海を見て泣いたろう

ニュースではタワー・駅・ビル・映画館・コンビニを潰し進む巨大魚

ドーナツと空を交互に眺めれば青を背にして浮くビッグ・オー

時期尚早だった施策が公園に咲いていたので写メで送るよ

ジューンブライドショッピングモールエンド

加賀田優子

ふくらはぎ燃えてるよーっってお呼び出しされていた服の子に笑われる

あたらしいフードコートで暮らそうねポケットに音の鳴るものつめて

歌声がとろんとやんでカーテンがひらけば空っぽの試着室

もらってくださいと震えながら箱は非常口のほうへと這っていく

のこされた身体にすこしいれるなら痛みではなく小鳥の刺繍

肉汁でひたひたひかるくちびるの私たちがいちばんかわいいよ

フラダンス教室から見える踏切

ナイス害

じゃんけんで十週連続負けたからサザエさん教脱会します

ど田舎の電車は一両編成で無計画では死に切れません

カンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカン

カンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカン

カンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンガコッ

カンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカンカン

遮断機カンカンカンカンカンカンカンカンに誰かがかけた白いレイ 一気に根元に落ちてくる午後

ごめんなさいごめんなさいと泣きながらラーメン食べるガラクタになる

落とし物ですよと涙を拾い上げ届けてくれる天使がウザい

鳩時計もらった人が車のなかで考えてること、わかるよ

金閣寺 検索ワード 急上昇 なんだなんだ、ってなる冬とか

ご希望の方はコメントくださいね、が〇件だった ね は明るい

深夜番組じゃなくなったら、それは おもしろいことになっていくよ

キッチンの横のちいさな収納は柚子胡椒とかあった暗闇

それから、それから

はだし

そうだった おー縁起よさそうな雲、龍みたいって思って 撮って

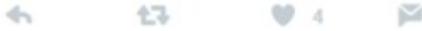
心のだ真ん中にいる鳥羽一郎はかっこいい 海へ突き落しても

明け方の傘の匂いをぶつけあう みんなと飲めてほんとよかった

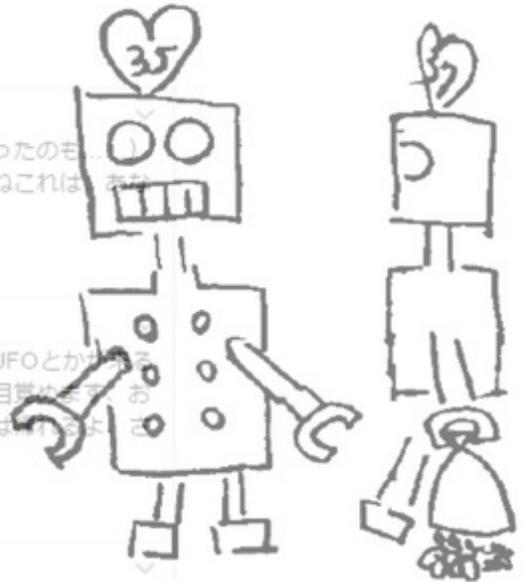
雷とオリンピックと夏がくる網戸をあたらしくしましようか



恋をしている @yayoikenumai · 2015年11月16日
 を読んでいるようだと言われた（赤ん坊が喋れるようになったの...）
 ほど面白いんですが、まだちょっと魅力が伝わりきってないですねこれはおな
 たです。



恋をしている @yayoikenumai · 2015年11月16日
 止む、農家の方には降ります、で、ここからがスゴイんですが、UFOとかは見る
 かもしれません、凄すぎて、文フリの会場に、中学生は腕の籠が目覚めます、お
 年寄りにはバイアグラとほぼ同じ効果があり、タイムトラベラーは...
 らに極め付けは、光闇風水火土の全ての属性を持つドラゴン、



恋をしている @yayoikenumai · 2015年11月16日

ハイパー恋をしているプチ特
 集!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
 恋をいないけど勝手にやっちゃうかん
 ね!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! スペ
 シャル!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!



恋をしている @yayoikenumai · 2015年11月16日
 お金のない人にも朗報で読んだらお金が買えるかもしれない予感があり、笑え
 て、泣けるも付いてきます、が、ちょっと怖くて、もっと分かりやすく言うと、
 あなたが好きな歌人がいますね、その人の運か先にある巨木を想像してくださ
 い、それが恋をしているです、ギャルはヤバいと確実と言う、おまけに雨が



恋をしている @yayoikenumai · 2015年11月16日
 恋をしているも短歌連作を書かさせていただきました！この連作がめっちゃくちゃ良
 い作品なんです、どのくらい良いかと言うと、まず天才が書いたとしか思えな
 いし、音楽なら花が咲く、誰も勝てないし、基本的に神、と発言せざるを得な
 い、また、恋に悩んでいる人はその恋が叶うし、



全国津々浦々に遍く存在する恋をしているファンのみなさんこんにちは。
当結社代表兼結社誌超編集長・恋をしているは未だ現れません。

ここはデパートの屋上で声を合わせてライターやプリキュアを呼ぶ
子どもたちの心意気で皆さまに恋をしているのことを考えて頂こうと、
頂かねばなるまいと、今号を企てた次第です。

左記の企画をご用意しておりますので、お楽しみいただければ幸いです。

・募集企画① 題詠「恋をしている」 応募作品発表

・募集企画② 恋をしている作品一首評 応募作品発表

・メンバーによる恋をしている作品一首評

募集は5月11日～28日にTwitterで行われました。

一首評は「恋をしている」名義でなんたる星誌上や他web・紙面に発表された
短歌を対象としています。

説明はそんな感じですが、次ページから多分全員が恋をしているのことを考えています。
すごいで。ではどうぞ。

題詠「恋をしている」応募作品発表

タテの③ この問題を考えた（絶対）女に恋をしている

松井一馬

恋をしているのだきつと 放課後の渡り廊下で二連側転

北側

夕焼けも夜景もぜんぶ美しくだめだきちんと恋をしている

泥ロボ

くちづけでふわっと消えてなくなった綿あめのように恋をしている

知己 凜

シマリスがそろばん弾く音に似た恋をしているココアブラウン

安西大樹

開くまで恋をしている人はみな期待に膨らむふうせんかずら

ニキタ・フユ

恋おわらせる舗石に林檎を一つ転がして恋をしている

小川窓子

老いらくの恋をしている高齢化社会じゃただの恋バナっすね

涸れ井戸

指名手配写真の人も笑っててぼくより恋をしてそうな顔

多賀盛剛

妹が恋をしている不揃いな産毛に初夏の気配をまぶして

深影コトハ

恋をしてイルカが飛んだ瞬間をぼっちり見てないオレが優勝

オノダミキ

ゾウガメを背負って川で洗濯をしているわたし恋をしている

柚木ことは

夢で会ったとき恋をしているさんはフリスクの姿でしたがほんとうですか のDM

あかみ

そして予定調和のごとく馬鈴薯が煮くずれてゆく恋をしている

笹谷香菜

恋をしている一首評 応募作品発表

◇知己 凛

寿司をあまい君の右手で食べたら他にはあんまりなにもいらぬ

(「匂い」／なんたる星 2016年10月号)

こんなことを好きな人から言われたら、「もういつでも食べさせてあげる」って思っちゃいます。「あまい」をひらがなで表現されたことで、その指のやわらかさや彼女の人柄まで見えてくるようです。また「あんまりなにも」という曖昧な表現は主体の、甘いけれど素直に彼女に言えない動く心も見えてきます。この歌の主体のような感性の殿方と一緒に生きていきます。

◇泥ロボ

これは詩でよかったなお前これは詩でお前は
コンビニエンスストアだ

(「し」／なんたる星 2014年10月号)

果たしてこの人は本当に個人なのか？ と思うことがたびたびあった。あるときは言葉遣いの悪い女子高生。またあるときは音やらエビやらで、いったい誰だかわかりやしない。

「短歌は個人のものなんだ」と言う人は多い。そのほうが楽しく疲れられるから。でもこの人は違う。この人にとっての詩は店舗型。お客はいつだって好きなときに、好きな商品を買って帰ればいい。オーナーが裸で突っ立っていてどうする。レジ前には可愛い女の子が必要なんだよ。

◇あかみ

Vending machine のように覚えたら嬉しい言葉

ゆきどけながら

(「『手紙を食う猿』／なんたる星短歌やめてく
ださい号)

「ゆきどけながら」の結句がふしぎだ。通常の「雪解け」なら寒い冬が終わり春が来るときに、だけど、ひらがなで書かれると、雪や季節をあらわすんじゃなくて、もっとふんわりしたゆるさが生まれている感じ。もっといえば、ぼくやわたしもゆきどけることができず。はず。上の句のあたらしい言葉を覚えるうれしさもひとつのゆきどけとしてあるんじゃないだろうか。意味を詰め込まずにふっと手放すような、だからこそ残る余韻が心地よい。

なんたる星の恋をしている一首評

◇迂回

ヒップホッパーとひたすらしゃぶしゃぶをする私は！
お前とは何が違う！アンブレラは語

（「全知」／なんたる星 2015年9月号）

何句目かわからないけど「お前とは何が違う！」が
筋肉の張り詰めた問いになっている。これだけ見ると、
「お前」がすごく良い立場にあったりするときに出る
どうしようもない羨望と怨嗟の入り交じる問いだ。

「私」は「ヒップホッパーとひたすらしゃぶしゃぶ
を」している。そりゃ何もかも違うだろうと思うんだ
けど、そんなときじゃないとしても「私」と「お前」
はどうしようもなく違う。そもそも違いすぎてヒップ
ホッパーとかしゃぶしゃぶとか関係ないのだ。誤差で
しかない。なんてことだ。「私」はそのどうしようも
ない「違う！」を極めて重大なことだと考えているの
か？もしくはどこかで当たり前だとして諦めているの

か。わからない。わからないけれど、たぶん違うこと
を本当は知っているのだ。

そしてアンブレラは語だった。違いすぎる私とお前
がもしかしたら共有している可能性があるのが

「語」。アンブレラは語、その事実をみるとき、語
じゃん、語だね、という確認がひとつできる。それだ
けでいいのかもしれないけど、「アンブレラ」は一人
であることか二人であることをどうにも浮きぼりに
してしまいう名詞に見えてきて、その言葉をもって

「語」を見つめ直したこいつを思う。それなのに、あ
るいは「アンブレラ」を選択したせいで、ここだけ思
い出したみたいに結句七音にびったり収まっていること
がどこか冷たく無機、単なる提示、にも見えて、それ
を見つめてから視線を「私」「お前」に戻したときに
残る飛蚊症じみたぼやけた輪郭が「同じ」部分かもし
れない。信じていいんでしょうか。逆方向に振れた視
線に戻しつつ歌を読みおえる。ヒップホッパーとしゃ
ぶしゃぶが世界から外れた。その他「みたい」にぶかぶ
か浮きながらこっちを狙っている感覚が少しだけ残
る。

◇スコラブ

アブラハムの何人だっけ、分からんが全員体調不良の麻雀

(「斉天大聖」／なんたる星2015年1月号)

ときどき、恋をしているの短歌を読んで笑ってしまふことがある。一般的に考えられる、笑いを狙って詠まれたであろう短歌では、自分でそう狙って詠んだものも含め、実際に笑えるということはそうないのだが、恋をしているの短歌は、わかりやすい「オモシロ」というものからはもう少し離れたところで、不意に笑わせてくることがあるように思う(し、「泣ける」ということについてもまた同様にある)。

「大喜利的な短歌」という言葉を時折目にして、おそらくは「お題に対して答えをひねるような」「アイデアありきの」といった意味合いで(否定的な文脈

で)使われていることが多いのだろうかと思うが、それとは別に「大喜利のように笑える短歌」とは何かを考えた時に、こういった歌のようなものこそ、そう呼べるもののような気がしている。

「アブラハムの何人だっけ」という言葉は、童謡「アブラハムの子」を彷彿とさせるが、その言葉を選んだことに特段の理由がなさそうに見える。音の響きやおおまかなイメージからの着想で、「全員体調不良の麻雀」といういわば「オチ」のフレーズに繋げるために、もっとも面白い登場人物を選んだらそうなったのか、もしくは「アブラハムの何人だっけ」というフレーズが先あって、その者たちが何をしていたかという大喜利に対する回答が「全員体調不良の麻雀」なのかもしれない。

恋をしているの短歌を読んでいて思うのは、ときに、歌がある特定の意味を持つことが、作者(自分)の意図からすると邪魔になる、という経験のことである。例えば漫才を見る(聴く)とき、いちいち言葉の

意味を深く考えて見て（聴いて）いては笑えないし、多くの場合は言葉の詳しい意味よりもっと直感的に捉えて見るのではないだろうか。だからこそ面白い言葉で笑えるし、それはお笑いに限らず、「泣ける」であるとか「怖い」であるとか、他の感情をベースとしたものでも、よりダイレクトに伝わってくるし、詠み手として、言葉の意味を越えたところで感情を伝えたいと思うことがある。そのような言葉に対する恋をしているの感性の凄まじさがこの一首にわかりやすく表れている。

……というところまで書いてみて、本当は恋をしている自身にとっては、そうした「感情の揺さぶり」すらも本意ではなく、実に感情的に虚無なものを目指している、この歌について自分が思ったことは「ぶれ」が起こった結果ぐらいのものなのかも、とも思えてきてならない。そして、そう思わされてしまうのは、それだけ恋をしているという存在は底知れないからだ、ということなのだろう。

◇加賀田優子

それが頭を覆っててわたしは嫌だった くらしハウス（「くらしハウス」／なんたる星 2015年2月+3月号）

さて、これは連作「くらしハウス」の一首目なんです。まずぜんぜん三十一音じゃない。でもそれは〈くらしハウス〉に頭を覆われちゃってるから、しょうがない。この音の隙間には〈くらしハウス〉がエコーがかって詰まっているので、実はぎゅうぎゅうなんです。

〈くらしハウス〉ということばの第一印象は、禅問答っぽさ、です。調べてみると実在するコンビニの名前でした。太陽と月くん、みたいな看板のキャラクターの絵が、シャム双生児みたいでちょっとした恐怖を覚えます。

くらし（暮らし）はハウス（家）を含むものであるし、その逆も然り、なので、軽く、頭痛が痛い、みた

いなことが起こってないでしょうか。だからといって『ハウスくらし』にするとまた違和感がある。ひらがなカタカナでふわっと見た目はかわいいのに、考え始めると中身が空虚で落ち着きません。

日常でふと拾ったことばがこんなふうなところを支配してしまう、これはひとつの罨なんだと思います。ゲームなんかだとこの人はいますステータス異常を起こしている、頭の辺りに何か不穏なアイコンが出ている状態。

また、〈くらしハウス〉の罨にはみんながひっかかるものではなさそうなのも嫌ポイントです。回避できる人とそうじゃない人がいるんだろうなという絶妙なところ。だから、この短歌をさしだされたとき、そこにいる私たちも、罨にかかったりかからなかったりする。

ステータス異常のまま、〈わたしは〉と話しかけてくる人の前で、私は、と見つめあうのか、目をそらすのか。そこに選べることの緊張感があって、好きな一首です。

ちなみにこの連作には

手について謝ってよなにこの表現もう一度言いたい手について謝ってよ

という歌もあって、こっちはゲームとかだとパワーアップアイテム発見！で、攻撃力などが上がっているアイコンがひかっている状態のようで、対になっている気がします。

そういうわけで、罨を踏む回数とアイテムを拾う回数をなんとかおんなじぐらいにしていけたらな、と、思いました。

◇はだし

意味が降るなかを私は語を差して歩くペンライト
ほどのペニス

(「全知」／なんたる星 2015年9月号)

語は傘として、この連作では扱われています。

ヒップホッパーとひたすらしゃぶしゃぶをする私は！
お前とは何が違う！アンブレラは語

この連作のふたつ前の歌でこうなっているので間違いないはず。だとしたら「意味」は雨っぽいですね。
降ってるし。だとして話を進めます。

雨って天候のひとつで、自然ですから受け身にならざるを得ない。それを「意味」だといっている。辞書で調べると言葉が示す内容 みたいなことらしいです。「意味」。内容の雨。それが降ってくる世界ですから、

ただ立っているだけではもう「意味」で服とかびつしよびしょになるし、へたすると風邪をひくかもしれない。「意味」のもたらす風邪ってなんでしょね。自分はすべてに内容があるものだと思いいこんで、パンクしてしまう様、みたいなのを浮かべました。

さて、そんな世界を主体は歩くわけです、語である傘をひらいて。でもペニス丸出しのまま。傘があるとはいえ、裸の自分をそこへさらすのはなかなか無謀です。寒いし。ペンライトに例えられたペニスの頼りない感じも、ありのままをさらす主体にパワーがあまりないことに思えてきます。また、ペンライトが夜をひっぱってきていること、自分のペニスを見るためにはうつむかなければならないこと、にも注目したいです。なんだろう、これらがあわさって浮かぶ情景、しんみりしませんか？

「語」をつかった「意味」へのささやかな抵抗。感じたものをそのままをぶつけていく。それはある種、戦いにも思えます。この連作では、そういったスタンス

で作歌されているようにみえるのですが、その最後から二番目におかれたのがこの一首、なわけです。”がんばっている”主体も、いずれ風邪をひくのではないか、という予感がすることが寂しい。なんだかぜんぶ空元気に思えてくる。

だれかのする「意味」がない（のようにはみえる）ものって、不意すぎてウケたり、書き手のテンションが乗ってたりで読んで楽しいんですが、その裏ではしんどさ・空虚さみたいなとの戦いがあるのかな、それがこの一首にあらわれてるのかなみたいだね、なりました。たいへんだ。

◇ナイス害

にんげんを愛してしまったにんげんを愛してしまった僕の名が降る

（「『手紙を食う猿』／なんたる星短歌やめてください号）

手紙を食う猿とは、彼の大喜利での名前でもある。時に面雀のようにワードが繋がっているような短歌があつて、まさしく猿がタイプライターを打っているような奇跡を我々は目の当たりにするのだけれど。

そしてここぞという場面（なんたる星唯一の同人誌）でこのワードを連作のタイトルに持ってきたのは「大喜利のアレで勝負してやる」という意気込みが感じられて、すごく嬉しかった。掲載されている散文「デート百景」は、もう超長文の大喜利のボケでしかなくて、何度も読んで笑った。ちなみに、以前みんなで参加していた大喜利サイトのプロフィール欄に一言なんでも

書いてよくて、そこに恋をしているが書いていたワードが「なんたる星」だった。だから、ウチらはなんたる星ができる前から「恋をしている『なんたる星』」だったのだ。評、そう、評を書かなくては。

ここでの僕の名とは「恋をしている」だ。もし恋が降り積もって愛に溺れて昇格した時、「愛をしている」になるはずなんだ。愛をしているって変だな。でも変なほうが彼らしい。

手紙を食べ続けながら仰々しく恋をしている事が、彼なりのパワーオブタンカなんだと思う。実際ロマンチストだし、いざとなったら短歌で女子をメロメロパンチにすることだってできる。

愛子さまが、飼ってる犬に「にんげん」と名付けたニュースを思い出したけど、今は関係はない。

恋をしているは、愛する人とどんな言葉を交わしているのだろうか。「愛してしまった」なんて、腫れ物に触れたような言い方をしている。もしかしたら、短歌や大喜利と同じように、「猿」というフィルターを通してしか愛を語れないのではないか。そして何より、「猿」は彼にとっての免罪符にも取れてしまって、自

分を卑下しながら常に恋をしているように見える。いや、もう「恋をしていること自体」が彼の免罪符になりうる危うさもある。恋をしているから全て許してほしいという、ビッグバン。なんたる星がなくなる時も、このビッグバンが起きそうで怖い。

◇伊舎堂 仁

「褒められたことによって」遠くまで行く人がいるかと思えば、「褒めても褒めても」そこにいる、人もいる。鳥人間のコンテストじゃないのだし遠さ近さは関係ない、と居直ることもできるのだけど、というかこれはもっぱら褒める側が背負うべき問題かもしれない。ダウンタウンをほめたいなら島田紳助である必要があるし、リップスライムを「見い出した」ことになるのはその人がデヴラージであったからだ。伊舎堂仁はどうだろう。恋をしているの邪魔をしてないかが心配だ。

ホテルのほんの少しの開閉が許された窓、という名の公園

（「くらしハウス」／なんたる星 2015年2+3月号）

恋をしているはその短歌の韻律に、スムーズに読み下せる、の快楽を付与するということをほとんどしない。

大づかみに言えば「音楽性」、を剥ぎ取られた短歌へ次に私たちは作者の切実さや発想の妙を見つけにくいとするが、作者、がいるべき場所にいるのはこの歌の場合だと単にそういう名の『公園』である。いやいや、「ようこそ」じゃなしに、と詰めようにも『公園』は切実さやトんでる思考をこちらに手渡してくれたりほしくない。ただただ公園である。だからと言って、一首一首が生身の恋をしているの活かされていないところで成立しているというわけでもなく（いわゆる「大喜利短歌」のウィークポイントはそこにあるのだが）、この〈読んでいったら公園に着く〉感じは

「恋をしている」の実存から受ける空気圧に限りなく近いものではないか、というところまで読みを進めてみたくなる。

ホテルの／ほんの少しの／開閉が

という、どうにもまだ組み上がっていない感じのする韻律の不全感から、一首、という目標を達成できていない誰か、の切実さを想像することもできるかもしれない。はつきりしている歌意が、こんどは意図をわからせてくれなくする。公園の名前が ホテルの・・といるところから考えて歌を作ったのか、あの少ししか開けられない窓、を字で言ってみたとこれだと詠み終えられない、からそれが公園の名前だというところへ（雑に）接続したのか、だとかそういうふうに「歌の裏側にまわる」ことで出会うことのできる発想の妙もあるかもしれない。すべて、恋をしているに恋をしてしまった側の惚れた弱みがさせる「迎えた」読みであるから、こんなのはオフィシャルでは通用しない。だから、恋をしているを褒めようとすると

き、人はたぶんちよつとだけむきになる。いや、今号に集まってきた評を読まないかどうかとも言えないんですけど、僕は少なくともそういう、夜に未成年が暴れてるみたいになる。もはや作者評をはなれて言ってしまうえば、恋をしているへの言及のスタイルはそのままその人の「分からなさ」への接近のしかたを象徴したものになる。僕の場合はむきになる。ひ弱さが生じさせる「エモさ」にうっとりしたりしているのかもしれないあなたが、僕は心配だ。

だって恋をしているはこんなにも、こういう感じじゃないか。

【編集後記】

ハイパー恋をしているプチ特集（略）号いかがでしたでしょうか。本当の恋をしている号は恋をしているが戻ってきてからが本番だといううわさもあり、とりあえずプチと銘打ってます。あの男のたたずまいはまたいつの日かみなさまをくるおしくさいなむことでしょうか。いい意味でね。いい意味で。

あと泥ロボこと米田が募集枠から応募してて一同はびっくりしており、またできたら、そのうち、土手で、きれいな、みどりの再生紙のちぎれた、インクはもしかしたらおっばい、の夏の、玄関、で一緒できたらいいなって。思ってます。

場、よな～ というようなことを最近は少し思い、人がいるな～ とか、名前を知ってるな～ とかそういうそもそも、みたいなところに何かあり、それだけでいいならそれでいいなあと。思うわけです。曖昧でよくない。各々の持つカレーのレシピほど具体的なものはなく、拳を握るならカレーのレシピをひとつのラインとせねばならない。肉を食え、うどんを啜れ。

もうすぐ夏。

キャロリーナ大僧正ったらいつも鏡の前なのよ、嘘みたいに優しい織——

執筆者

加賀田優子 ([@0ccak](#))

はだし ([@sunsetsan0](#))

伊舎堂仁 ([@hito_genom](#))

迂回 ([@ukaian](#))

スコラブ ([@scope_scape](#))

ナイス害 ([@NiceGuuuy](#))

なんたる星6月号

発行日：2017年6月5日

編集発行人：迂回

表紙：スコラブ

Special Thanks：企画応募者のみなさま

Twitter: [@nantaruhoshi](#)